

愛媛県立中央病院産婦人科臨床研修プログラム概要

《産婦人科臨床研修プログラム》

○ プログラムの目的

将来、産婦人科を選択する医師として、産婦人科医療の進歩に応じ、広い知識、錬磨された技能、高い倫理性を備えた医師としての知識、技術を習得する。

ハイリスク妊娠を含む妊娠の母体・胎児の管理とその分娩の管理に関して、また、婦人科疾患の診断・治療に関して、理解し、基礎的な技術習得を目的とする。

○ プログラムの特徴

当研修プログラムでは、幅広い臨床能力を備えた総合医としての能力に加えて将来産婦人科医をめざす医師を育てます。当院は総合周産期母子医療センターを運営しており、豊富な産科症例の経験、臨床能力の獲得が可能です。また、救命救急センターを運営しているため婦人科救急についても多くの症例を経験することができます。さらに、当院は愛媛県の腹腔鏡下手術治療の中心的な役割も果たしており、産科はもちろん婦人科の症例についても豊富な経験を積むことができます。当院ではどのような皆さんのニーズにも対応いたします。

《臨床研修病院群》

○ 基幹型臨床研修病院：愛媛県立中央病院

○ 協力型臨床研修病院：愛媛県立の3病院（今治、新居浜、南宇和）、
西予市立野村病院、愛媛大学医学部附属病院、
徳島県立中央病院、香川県立中央病院、高知医療センター

○ 臨床研修協力施設：おおぞら病院、松山ベテル病院、伊方町国民健康保険瀬戸診療所、
西予市立西予市民病院、松山リハビリテーション病院、渡辺病院、
鷹の子病院、ひねのクリニック、松山市医師会健診センター

《プログラム》基本例

(週)	1～4	5～8	9～12	13～16	17～20	21～24	25～28	29～32	33～36	37～40	41～44	45～48	49～52
1 年次	内科 (24W) うち総合診療科 (一般外来 2W)						救急(12W) うち麻酔科(4W)			産婦人科 (12W)			精神 (4W)
(週)	1～4	5～8	9～12	13～16	17～20	21～24	25～28	29～32	33～36	37～40	41～44	45～48	49～52
2 年次	外科 (4W)	小児 (4W)	地域 医療 (4W)	一般 外来 (4W)	選 択 科 目 (36W)								

◎ 基幹型臨床研修病院（県立中央病院）での研修期間…最低 1 年 2 ヶ月（60 週）以上研修

◎ 内科 24 週の研修では、総合診療科を 4 週まわり、うち 2 週は一般外来研修を行う

◎ 救急部門研修では、救急科研修や、麻酔科研修等を通して、基礎臨床能力、救急処置能力、プライマリ・ケア能力を高めるための研修を行う

また、研修医宿日直（一般当直、2.5 次救急支援）、3 次救急診療（上級医の指導下）、総合診療科外来などで研修し、数多くの症例を経験することが可能

◎ 産婦人科救急を希望する者は、麻酔科は、救急部門研修（4 週）と選択科（4 週）の 8 週以上を推奨する。

◎ 精神科研修は、愛媛大学医学部附属病院にて研修

◎ 地域医療は、愛媛県立南宇和病院を主とし、西予市立野村病院、おおぞら病院、松山ベテル病院、渡辺病院、鷹の子病院、伊方町国民健康保険瀬戸診療所、西予市立西予市民病院で 4 週間の研修を行う

◎ 選択科目では、県立今治病院、県立新居浜病院の他、松山リハビリテーション病院、ひねのクリニック、松山市医師会健診センターで 2 週間～4 週間の研修が可能である

また、四国 4 県立中央病院間で相互臨床研修を行うため、徳島県立中央病院、香川県立中央病院、高知医療センターで 1 週間の研修が可能である

◎ 一般外来研修は、内科（総合診療科）で並行研修を 2 週行い地域医療や選択科目で 2 週以上行う

注 1) 基本的診療能力習得のため、必修項目の症状については研修を行う。

注 2) 希望すれば選択科目で協力病院、協力施設での研修も可能である。

注 3) C P C は愛媛県立中央病院にて実施する。